

呼吸器内科

1. 診療科紹介

呼吸器内科は感染症、悪性腫瘍、アレルギー性疾患、更に膠原病や血管炎、血液疾患に関連した肺疾患なども扱い、その多彩さは内科の sub-speciality の中でも群を抜いています。更に急性・慢性呼吸不全患者、睡眠時無呼吸症候群患者の呼吸管理も取り扱います。このように呼吸器内科の医師が知っているべき知識の範囲は非常に広く、ほとんど内科全域に及び、さらに耳鼻科等他科の知識が必要となることもしばしばです。

当呼吸器内科では限られた数のスタッフではありますが、上記のような様々な呼吸器疾患の診療を行っており、呼吸器全領域についての的確な知識の習得と経験を積み重ねるという研修ができます。また呼吸器外科をはじめ関連各科とも密接に協力しており、幅広い知識を習得することができます。

さらに慢性呼吸器疾患の患者様を診療していく上で、看護師、MSW等との密接な連携が重要であり、チーム医療の研修もしていただきます。

教育体制 研修責任者 高際 淳（日本呼吸器学会専門医）
スタッフ 常勤医師 5名
施設認定 日本呼吸器学会認定施設

2. 診療実績（年間）

入院患者数	責任病床数（39床）	
	総入院件数	586件
検査等件数	気管支鏡検査数	95件
	アプノモニター検査数	53件
	在宅酸素新規導入数	27件
外来管理数	在宅酸素療法	63件
	在宅NIPPV療法	8件
	在宅CPAP療法	6件

3. 研修内容

研修到達目標

① 基本的診察スキル

呼吸器の診療に必要な訴え(咳、痰、呼吸困難、胸痛など)に対する適切な病歴聴取と、身体検査のスキルを習得する。

② 検査法

- ・ 動脈血ガス分析、ツベルクリンテスト：自分で実施し、結果を解釈できる。
- ・ 画像検査、呼吸機能検査、細菌学的検査、病理学的検査：適切な検査項目を選択、指示し、結果を解釈できる。
- ・ 気管支鏡検査：適切な検査項目を指示し、結果を解釈できる。

③ 手技

- ・ 胸腔穿刺、胸腔ドレーン挿入、胸膜生検：指導医の監督の下で自ら実施する。
- ・ 気管支鏡：指導医の監督の下で、気管内への挿入、観察が行える。
- ・ 気管挿管：指導医の監督の下で自ら実施する。
- ・ 気管切開：指導医の助手、介助が行える。

④基本的治療法

- ・ 薬物療法：作用・副作用・相互作用について理解し、選択の理由を説明することができ、自ら処方・指示ができる。
- ・ 酸素療法：患者の呼吸状態を理解し、適切な酸素吸入法と酸素流量を指示できる。
- ・ 人工呼吸管理：患者の呼吸状態を理解し、指導医の監督の下で適切な人工呼吸管理療法と呼吸条件を指示できる。

⑤経験すべき疾患・病態

- ・ 急性・慢性呼吸不全：原因・病態の診断ができ、指導医の監督の下で適切な呼吸管理を行うことができる。在宅酸素療法の経験する。
- ・ 肺炎など呼吸器感染症：起因微生物の推定、細菌学的検査の結果の解釈ができる。重症度の判定と適切な抗菌薬選択ができる。
- ・ 閉塞性肺疾患：画像及び呼吸機能の評価ができる。薬物療法を理解し指示・処方する。
- ・ 間質性肺疾患：画像及び呼吸機能の評価ができる。組織学的検査の必要性を理解し結果を解釈する。薬物療法を理解し指示・処方する。
- ・ 気胸・胸膜炎など胸膜疾患：胸水検査の結果の解釈ができる。原因の診断ができる。適切に胸腔穿刺や胸腔ドレナージを施行できる。
- ・ 肺癌：臨床病期・組織学的診断に必要な検査の選択・指示ができ、適切な治療法を選択できる。治療法の効果・副作用を理解し、副作用に対処できる。

⑥その他

- ・ 積極的に学会発表を行う。
- ・ (訪問)看護師、臨床検査技師、臨床工学士などと連携して仕事を行うことができる。